

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続＞

本日（18日）午後に、陸上自衛隊の協力を得て行った上空からの調査では、前回（10月7日）と比較して火口内に蓄積された直径600m程度の溶岩の大きさに特段の変化はなく、溶岩の縁辺部から白色の噴煙が上がっているのを確認しました。

### 【防災上の警戒事項等】

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から10kmを超えて降りました。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

### ○活動概況

#### ・上空からの調査（図1）

本日（18日）午後に、陸上自衛隊西部方面ヘリコプター隊第3飛行隊の協力を得て行った上空からの調査では、前回（10月7日）と比較して火口内に蓄積された直径600m程度の溶岩の大きさに特段の変化はなく、溶岩の縁辺部の主に北側と東側から火口縁上50m程度の白色の噴煙が上がっているのを確認しました。



図1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

- ・前回（10月7日）と比較して火口内に蓄積された直径600m程度の溶岩の大きさに特段の変化はありませんでした。
- ・溶岩の縁辺部の主に北側と東側から火口縁上50m程度の白色の噴煙が上がっているのを確認しました。